

全国ベスト16に 剣道スポーツ少年団



賞状を手にする大山町剣道スポーツ少年団の選手たち
写真左から 門脇京吾監督、浅田光貴さん（大山中3年）、
門脇 蒼さん（大山中3年）、徳永 隼さん（名和中3年）、
渡辺匡哉さん（大山中1年）、森下舜介さん（大山中3年）

財団法人全日本剣道道場連盟主催の第43回全日本少年剣道練成大会が7月29日、30日に東京の日本武道館で開かれ、大山町剣道スポーツ少年団（代表 小村昭二さん）が鳥取県の代表8チーム中の1チームとして出場しました。小学生と中学生の部に分かれて白熱した戦いをした結果、中学生の部の団体で、参加の473チーム中、見事全国ベスト16に入り、健闘が光りました。門脇監督は「指導者、選手、保護者ががんばった成果です。選手が日ごろの力を出し切って一丸となって戦えました」と喜びを語りました。キャプテンの

浅田光貴さん
（大山中3年）

は「相手も強かったが、一人ひとりが自分のポジションをこなし勝つことができました」と大会を振り返りました。同スポ少は毎週月・水・金の18時30から、名和中学校の武道館で練習に励んでいます。

大山ちびっこ夏祭り ～手づくりの器で流しそうめん～



流しそうめんを楽しむ児童たち



川上さんのアドバイスを受けながら竹を切る児童

だいせん子ども体験プランの行事として、大山ちびっこ夏祭りが8月5日（火）、大山公民館・大山分館の主催で行われました。当日は大山小学校の児童6人と保護者4人が参加し、講師で地元の川上信幸さん（佐摩）の指導のもと、竹で手づくりの器を作り流しそうめんを楽しみました。

最初は川上さんの手早いのこぎりさばきを観察。次に子ども達が川上さんの指導を受けながら挑戦しました。初めてのこぎりを使う子どももいましたが、なかなかの手つきであったという

間に切れる様子に保護者もびっくり。中には「お母さんやおじいさんの器も作りたい」と積極的な子どももいました。「竹は抹茶みたいないいにおいがする」「これでお茶を飲みたい」などと嬉しそうにしています。

待ちに待った「流しそうめん」では、15メートルもある竹の長さにもみんな大喜び。竹で作った箸で一生懸命にそうめんをつかんで、口いっぱいにはお張っていました。その後は竹とんぼを作って、広場で思い思いに飛ばして時間も忘れるくらいに遊びました。作った器や竹とんぼは記念に持ち帰りました。地元の方に指使いを教わったり、保護者と協力して作品を作ったりするといったふれあいを十分に楽しんだ1日となりました。